

# Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2023  
OCTOBER

No. 93

Sat. 14th October  
Kawasaki Subscription Concert

No. 715

Sun. 15th October Subscription Concert

No. 135

Sat. 21st. October Tokyo Opera City Series

# 10



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター 小林壺成  
グレブ・ニキティン

アシスタント・  
コンサートマスター 田尻 順

会 長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創 依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理 事	阿部武彦 辻 敏 池辺晋一郎 永山 治 伊藤美樹 夏野 剛 大橋 博 南部靖之 コシジュンコ 福川伸次 庄司 薫 藤原 洋 菅谷貴子 増岡聡一郎 竹中平蔵 森 京子
監 事	磯村文靖 寺西基之
評議員長	金山茂人
最高顧問	
評議員	梅沢一彦 中村紀子 鷺海量明 星 久人 片山泰輔 山添 茂 加藤英輔
特別顧問	飯島延浩 草壁悟朗 福田紀彦

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

### 1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有里
- 吉川万理

### 2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河堀あずさ
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 辻田薫り
- 塩谷しずか
- 渡辺裕子

### Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西応興
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃

### Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 回笹 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 磐江慶行●
- 謝名元 民
- 樋口泰世
- 福崎茉莉子

### Double Basses

- 回助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- コーデイ
- ロースプーム
- 渡邊淳子

### Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛\*

### Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

### Oboes

- 荒 絵理子
- 浦脇健太
- 荒木良太\*

### Oboe&English horn

最上峰行

### Clarinets

- エマニュエル・ヌヴェー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

### Bassoons

- 福井 蔵
- 福士マリ子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

### Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 阪本正彦
- 清根伸吾

### Trumpets

- 澤田真人
- 野沢岳史●
- 松山 萌

### Trombones

- 大馬直人
- 鳥塚心輔
- 住川佳祐

### Bass Trombone

藤井良太

### Tuba

近藤陽一

### Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

### Librarians

林 知也  
加藤幸子

### Stage Managers

西岡理佐  
山本 聡

### 楽団員

井伊 準◆

### 楽団長

廣岡克隆

### 編成局シニア・ディレクター

藤原 真

### パーソネル・マネージャー

大和田浩明  
謝名元 民

### 楽団委員

小西応興(議長)  
福留史紘(書記)  
清水泰明  
多井千洋  
北村一平  
藤井良太

### 事務局長

辻 敏

### 事務局

市川萌都  
伊藤瑛海  
小川博司  
■尾木貴雄  
桐原美砂  
高瀬 緑  
竹内裕子  
長久保宏太郎  
山田道子  
□梶川純子  
榎 日向\*

### 名誉団友

深江泰輔◆  
三木晴雄

### 団 友

天野佳和 佐々木真  
新井 汎 篠崎 隆  
安藤史子 菅野明彦  
池田 暉 杉浦直基  
石川晴依世 鈴木一輝  
今村和弘 芹澤英雄  
岩澤淳子 曾根敦子  
上原正二 武田英昭  
上原梅照 田中真輔  
上原未莉 千村雅信  
内田彰雄 十亀正司  
内田彰子 豊山 悟  
宇都 実 中塚和良  
梅田 学 中塚博則  
大隈雅人 中山 智  
大塚正昭 西依智子  
大楚展男 西藤智治  
大和田ルース 野村真澄  
小川さえ子 馬場隆弘  
原田真保子 白野 奏  
奥田史史 原田史史  
首川健二 ペアソン  
加藤谷酒美 ボーマン  
笠原勝二 前田健一郎  
甲藤さち 松崎里絵  
加藤信吾 丸山正昭  
金澤 茂 三浦正信  
久保田一穂 宮原祐子  
熊谷仁士 宮本直樹  
眞原亮司 宮本 睦  
小林照雄 森みさ子  
小林聖二 諸橋健久  
渡辺 功 渡辺啓郎

☆ソロ首席奏者 ○首席奏者 回客演首席奏者 ○フォアシュペーラー ●インスペクター

■本部長 □シニア・ディレクター \* 研究員・準事務局員 ◆ 故人

# 演奏会でのお願い Concert Manner Guide



## チケットに記載された座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットは記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



## 演奏中はお静かに

手荷物に付けている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮ください。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



## 開演前に携帯電話、時計のアラーム音、電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



## 周囲の視界を遮るような行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い帽子や高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。またリズムをとる行為も迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



## ホール内での録音・録画・許可のない写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.



## 演奏中の飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は場内に響きますので、演奏中の開封はご遠慮ください。

Refrain from eating and drinking during the performance.



## 補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウリングの発生を避けるためにきちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



## 開演後の入場を制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



## 咳、くしゃみをする際はハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



## 曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause until the actual end of the performance.

## カーテンコールの撮影について

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティシリーズ・特別演奏会にて終演後のカーテンコールの撮影が可能になりました。撮影は自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

◎前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません

◎フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください

◎SNS等に掲載する際は、ほかのお客様の映り込みにご注意ください

◎スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用はご遠慮ください

## 10/14 SAT. 15 SUN.

## 川崎定期演奏会 第93回

2023年10月14日(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

## Kawasaki Subscription Concert No.93

Sat. 14th. October 2023, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

## 第715回 定期演奏会

2023年10月15日(日) 14:00 サントリーホール

## Subscription Concert No.715

Sun. 15th October 2023, 14:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]  
 カテジナ・クネジコヴァ [ソプラノ]  
 ステファニー・イラーニ [メゾソプラノ]  
 マグヌス・ヴィギリウス [テノール]  
 ヤン・マルティニーク [バス]  
 東響コーラス [合唱]  
 富平恭平 [合唱指揮]  
 小林成成 [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor  
 Katerina Knezikova, Soprano  
 Stefanie Irazyi, Mezzo Soprano  
 Magnus Vigilius, Tenor  
 Jan Martiník, Bass  
 Tokyo Symphony Chorus  
 Kyohei Tomihira, Chorusmaster  
 Issey Kobayashi, Concertmaster

ドビュッシー/ノット編:  
 交響的組曲「ペレアスとメリザンド」(47')

休憩(20')

ヤナーチェク:グラゴル・ミサ  
 (Paul Wingfieldによるユニヴァーサル版) (42')

I. イントラダ V. グレド  
 II. 序奏 VI. サンクトゥス  
 III. キリエ VII. アニュス・デイ  
 IV. グロリア VIII. オルガン・ソロ  
 IX. イントラダ

C. Debussy / Nott :  
 Pelléas et Mélisande (47')

Intermission(20')

L. Janáček : Glagolitic Mass (42')  
 (Universal edition by Paul Wingfield)

I. Intrada V. Věruju  
 II. Úvod VI. Svet  
 III. Gosposdi pomiluj VII. Agneče Božij  
 IV. Slava VIII. Varhany solo  
 IX. Intrada

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)|独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル、川崎市(10/14)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(10/14)
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(10/14)

楽曲解説はP.07をご覧ください



MUZA  
 KAWASAKI  
 SYMPHONY HALL



10/14 SAT. 15 SUN.



©K.Miura

# Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット  
[指揮]

Music Director  
音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴァースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマンド管音楽監督も務めている。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、世界の主要オーケストラ・音楽祭に客演。

2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞（オペラ・オーケストラ部門）」、2022年音楽の友誌「コンサート・ベストテン」国内オーケストラ最高位、毎日新聞クラシックナビ「音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン」第1位に選出。

レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music.

In Japan – where he holds a 13-year contract as chief conductor of the Tokyo Symphony Orchestra – he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity.

Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE (in 9.1 Auro 3D) and OCTAVIA. His contract as Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande has recently been extended indefinitely.

**Katerina  
Knezikova**  
Soprano

**カテジナ・  
クネジコヴァ**

[ソプラノ]



©Petr Weigl

チェコ出身。オペラ、コンサートの両方で活躍し、モーツァルトをはじめ、「ルサルカ」、「売られた花嫁」、「カーチャ・カバノヴァ」の表題役等にも定評がある。コンサートのレパートリーも幅広く、世界を代表するオーケストラや指揮者と共演。その類まれな声楽の才能と芸術性が高く評価されている。2021年にリリースしたソロ・アルバム『Phidylé』は、グラモフォン誌をはじめ多方面から高い評価を得た。2006年より、プラハ国立劇場メンバー。

Katerina Kněžiková is a renowned Czech soprano, excelling in both opera and concert performances. She's known for her captivating portrayals of Mozart's heroines and notable roles like Rusalka, Mařenka, and Káta Kabanová. In the concert repertoire, she has impressed with a wide range of symphonic works, collaborating with esteemed orchestras and conductors. Her 2021 solo album "Phidylé" received critical acclaim, including recognition from Gramophone Magazine. A member of the National Theatre in Prague since 2006, Katerina Kněžiková is a highly regarded figure in the classical music world, celebrated for her exceptional vocal talents and artistry.

**Magnus  
Vigilius**  
Tenor

**マグヌス・  
ヴィギリウス**

[テノール]



デンマーク・コペンハーゲン出身。高校時代に『ラ・ボエーム』に出会いオペラへの情熱に火がつき、デンマーク王立音楽アカデミーで学ぶ。2003年以降、様々なオペラハウスに出演。特に『ラ・ボエーム』のロドルフォ役で夢を叶え、2016年にワーグナー・デビュー作『さまよえるオランダ人』エリック役で絶賛を浴び、現在『ワルキューレ』ジークムントは代表的な役となった。2018年デンマークの演劇賞「ロイマート」を受賞。バイロイト音楽祭やライプツィヒ歌劇場にも出演し、ヘルデンテノールとしての才能を披露している。

I'm a Danish Jugendlicher Heldentenor, hailing from Copenhagen, with a passion for opera ignited in high school when I was introduced to "La Bohème." My formal vocal training took place at The Royal Danish Academy of Music, but my education is ongoing. Professor Douglas Yates, a pivotal mentor I met in 2001, helped me discover my unique voice. I began my professional soloist career in England in 2003 and later in Denmark, performing at various prominent opera houses. Notably, I fulfilled a dream by portraying Rodolfo in "La Bohème" and delved into Wagnerian repertoire. My Wagner debut as Erik in "Der Fliegende Holländer" in 2016 garnered acclaim, and Siegmund in "Die Walküre" has become a signature role, earning me the Danish theatre award "Reumert" in 2018. I've also performed at prestigious venues like Bayreuther Festspiele, Opera Leipzig, and others, showcasing my talent as a Heldentenor.

**Stefanie  
Irányi**  
Mezzo Soprano

**ステファニー・  
イラーニ**

[メゾソプラノ]



バイエルン・キームガウ地方出身。ミュンヘン大学音楽学部で学び、2006年ジャン＝カルロ・メノッティの歌劇『領事』でキャリアをスタートさせ、特にワーグナー『トリスタンとイゾルデ』ブランゲンネ役は高い評価を受けた。アッシュャー・フィッシュ、サイモン・ラトル、ズービン・メータなどの著名指揮者と共演し、ヨーロッパの主要なオペラハウスやコンサートホールの舞台を飾っている。レコーディングも活発に行っており、多彩なメゾソプラノの才能が目目されている。

German mezzo-soprano Stefanie Irányi, a prize-winning talent, emerged from the Bavarian Chiemgau region and studied at the Munich University Music School. Her career blossomed after her successful 2006 debut in Giancarlo Menotti's "The Consul" in Turin, Italy. Irányi has graced major European opera houses and concert stages, collaborating with esteemed conductors like Asher Fisch, Simon Rattle, Zubin Mehta, and others. She received critical acclaim for her Brangäne role in Wagner's "Tristan and Isolde" and has a deep affinity for German art songs. Her impressive discography includes notable recordings, showcasing her versatile mezzo-soprano talents.

**Jan  
Martiník**  
Bass

**ヤン・  
マルティニーク**

[バス]



チェコ出身。オストラヴァ大学卒業。2009年カーディフにて『Singer of the World』リート賞を受賞したほか、国内外の歌唱コンクールで優秀な成績を収めている。2008～11年にベルリン・コーミッシェ・オペラのアンサンブルメンバー、12～23年にベルリン国立歌劇場メンバーとして活躍し、『魔笛』ザラストロ、『ラ・ボエーム』コッリーネなどの役を演じた。コンサートリソリストとしても著名な指揮者と数多く共演。2017年ピエロフラヴェック指揮チェコ・フィル管とのドヴォルザーク『聖書の歌』は、国際的に高い評価を得た。

Bass Jan Martiník, a graduate of the University of Ostrava under Eliška Pappová, is a distinguished recipient of national and international singing competitions, including the Lied Prize at "Singer of the World" in Cardiff in 2009. He was a member of the ensemble at the Komische Oper Berlin from 2008 to 2011 and, from 2012 to 2023, a permanent member of the Staatsoper Unter den Linden, performing roles such as Sarastro in "The Magic Flute," "Colline" in "La Bohème," and more. He worked with renowned conductors and appeared as a soloist in concerts featuring works by Bach, Mozart, Dvořák, and Verdi, including Verdi's "Messa da Requiem" conducted by Fabio Luisi. His rendition of Dvořák's "Biblical Songs," recorded with the Czech Philharmonic under Jiří Bělohlávek in 2017, received international acclaim.

10/14 SAT. 15 SUN.

Kyohei Tomihira

Chorusmaster 富平恭平 [合唱指揮]



東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮を高関健、田中良和の各氏に師事。オペラでの活動が多く、多数の公演で副指揮者、合唱指揮者、コレペティトゥア、プロンプターを務めている。東京二期会音楽スタッフ、新国立劇場音楽スタッフを経て、2019年4月より新国立劇場合唱団指揮者に就任。

Kyohei Tomihira graduated from Tokyo University of the Arts. He has conducted orchestras such as Gunma Symphony, Tokyo City Philharmonic, Tokyo Philharmonic, and Tokyo Symphony. He also serves as Associate Conductor and Chorus Master in opera performances of New National Theatre, Tokyo, Tokyo Nikikai Opera Foundation and The Fujiwara Opera. He is a Chorus Master of New National Theatre, Tokyo.

Tokyo Symphony Chorus

Chorus 東響コーラス [合唱]

1987年に東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指揮者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招いている。公演毎に出演者を決定するオーディションを行うことで、常に演奏の質を高めている。2020年には第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「室内楽・合唱部門」受賞。

コロナ禍によりしばらくの活動休止期間を経て、2021年9月「名曲全集」にて東京交響楽団と2年ぶりの共演。音楽監督ジョナサン・ノットと2年半ぶりの共演となった2022年5月「ウォルトン：ベルシャザールの饗宴」、同年12月「ベートーヴェン：交響曲第9番」は絶賛を博した。

## メンバー表

## ●指導者

合唱指揮：富平恭平

稽古ピアニスト：古瀬安子、清水 綾

発声指導：大沼 徹、高橋 淳  
武内朋子

## ●委員長 岡野一哉 (Bas.)

●副委員長 鳥居順子 (Sop.)  
堀 浩史 (Bas.)

## ●パートリーダー

Sop. (正) 遠藤由理 (副) 岡 邦子

Alt. (正) 齋藤由紀 (副) 伊藤晴子

Ten. (正) 内山誠彦 (副) 枇杷高志

Bas. (正) 水野 敬

## ●コーラス委員

Sop. 草野真由美、森田恵子

山下由美子

Alt. 竹内あゆみ、藤崎幸子

吉村美恵子

Ten. 大崎 純、奥貫壮史

木村 健

Bas. 荒木康司、杉山慎二

竹内誠治

## Soprano

石井 恵

石村友希子

伊藤貴子

遠藤由理

大貫由香

岡 邦子

奥泉亮子

小田切明子

川崎仁美

川之上裕美子

高山美恵子

五味川裕美

佐藤かえで

佐藤深雪

佐藤由紀子

島崎尚美

菅澤和美

菅沼紀子

高井百合恵

武田美香

鳥居順子

中村美奈子

仁平朋子

坂東泰子

平尾祥子

平川囀子

本行佳奈

真下陽子

増淵由佳

森田恵子

森本由希

山下由美子

山之内文子

須田真理子

高田恵子

竹内あゆみ

田中美樹

谷野仁美

筒井敬子

中島奏子

福島里美

藤崎幸子

堀西香織

水越睦美

柳川智子

山下裕美

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

小名雅恵

垣花亜妙子

加藤由美子

菊池万美子

木内道子

後藤幸子

小林朋子

小張さゆり

齋藤由紀

須田真理子

高田恵子

竹内あゆみ

田中美樹

谷野仁美

筒井敬子

中島奏子

福島里美

藤崎幸子

堀西香織

水越睦美

柳川智子

山下裕美

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

吉井久美子

吉村美恵子

渡邊朋子

渡邊史恵

木内道子

後藤幸子

小林朋子

小張さゆり

齋藤由紀

須田真理子

高田恵子

竹内あゆみ

田中美樹

谷野仁美

筒井敬子

中島奏子

福島里美

藤崎幸子

堀西香織

水越睦美

柳川智子

山下裕美

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

山邊伸子

## Bass

岡野一哉

河村太郎

菊池 靖

黒澤 謙

河野 愛

杉山慎二

清木 達

竹内誠治

土井 丈

西村 真

早川克己

堀 浩史

水口敏也

水野 敬

宮寺 昇

柳谷一彦

矢野 通

山崎弘光

横尾 優

## Tenor

内山誠彦

大崎 純

大島克義

奥貫壮史

木村 健

鈴木徹也

竹内邦夫

竹田 忍

竹本大祐

塚本 隆

佃 浩一

永友伴憲

中原裕幸

西 宏隆

服部俊治

枇杷高志

馬橋達成

クロード・ドビュッシー(1862～1918)／ジョナサン・ノット(1962～)

## 交響的組曲「ペレアスとメリザンド」

1892年に出版されたモーリス・メーテルランク(1862～1949)の戯曲「ペレアスとメリザンド」は、翌93年にパリで上演されて評判をとった。老王アルケルの孫で王太子のゴローは森で素性のわからない美しい娘メリザンドをみつけ、城へ伴って妻とするが、彼女はゴローの異父弟ペレアスと恋に落ち、ペレアスはゴローに殺害され、メリザンドも出産後に息絶える、という物語だ。登場人物の来歴や言動は敢えて曖昧にされ、人物も物語自体も何らかの概念の象徴として描かれている。いわゆる象徴主義の手法によるこの戯曲は多くの作曲家を啓発し、これをもとにフォーレ(1845～1924)は劇付随音楽と組曲(1900年)を、ドビュッシー(1862～1918)は5幕オペラ(1902年)を、シェーンベルク(1874～1951)は交響詩(1903年)を、シベリウス(1865～1957)は劇付随音楽と組曲(1905年)を書いた。

ジョナサン・ノット(1962～)はドビュッシーのオペラの全曲から、ゴロー、ペレアス、メリザンドの3人に焦点を絞った15曲を抜粋し、自身のアイディアで一部を加筆した交響組曲版を編作し、2020年にスイス・ロマンダ管弦楽団と世界初演、及び、世界初録音した。

オペラの第1幕からは、ゴローが森に迷い込む冒頭部分、ゴローとメリザンドの要領を得ない対話、間奏曲、城の居間、城の暗い庭、の5曲が抜き出され、第2幕からは、泉水のほとりでペレアスと戯れ合ったメリザンドがゴローにもらった指環を泉水に落としてしまう場面、同時刻に落馬したゴローをメリザンドが介護しようとして怒りを買う場面の2曲が選ばれた。そして第3幕からは、塔の上階でメリザンドが髪を梳かし、下でペレアスとその髪を愛撫する場面、ゴローの出現、の2曲が、第4幕からは、城の一室、泉水で再び密会するペレアスとメリザンド、ゴローの出現とペレアスの死、の3曲が、第5幕からは、出産後の瀕死状態のメリザンドが横たわる城の一室、侍女たちの登場、メリザンドの死後に遺された者たちの嘔みしめる運命の普遍性、の3曲が選択されている。

萩谷由喜子 Text by Yukiko Hagiya

作曲：[オペラ]1893～1902年／[交響的組曲]2020年

初演：[オペラ]1902年4月30日パリ、オペラ・コミック座、アンドレ・メサジェ指揮

[交響的組曲]2020年11月ジュネーブ、ピクトリアホール、ジョナサン・ノット指揮、スイス・ロマンダ管弦楽団

編成：フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット3、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、ハーブ2、弦5部

## 10/14 SAT. 15 SUN.

レオシュ・ヤナーチェク(1854～1928)

## グラゴル・ミサ(Paul Wingfieldによるユニヴァーサル版)

レオシュ・ヤナーチェクが1921年に生地フクヴァルディでオロモウツの大同教と話す機会を得た際には、教会音楽の衰退が話題に上って、新作を書くのはどうかと提案された。『グラゴル・ミサ』について語る時にはこのエピソードがよく引き合いに出されるが、この作品を書き得た背景には一体いかなる文脈があったのだろうか。このことを考えるには、他ならぬ「グラゴル」という言葉の意味がヒントとなろう。

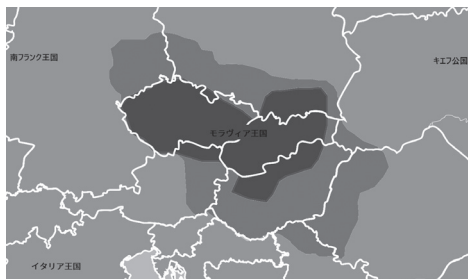
聖キュリロス(827～869)と聖メトディオス(815～885)がキリスト教を布教するために862年に東ローマ帝国の首都コンスタンティノポリスからモラヴィア王国に派遣され、同国で布教するに当たっては、マケドニアやブルガリアの方言に基づいた言語を作った(この言語が、後年「古代教会スラヴ語」と称せられることになる)。そして、この言語で文章を表記するために考案したのが、題名のもととなった「グラゴル文字」である。

オーストリアの支配下にあった19世紀後半のボヘミアやモラヴィアでチェコ人住民が自身の民族意識を涵養しつつ民族運動を展開する際には、スラヴ民族の一員としてのチェコ人という汎スラヴ主義的な理念が広く支持されていた。オーストリアに対する対抗意識を鮮明にするために、スラヴ民族の盟主たるロシアや他のスラヴ民族の文物を称揚するとともに、聖キュリロスと聖メトディオスの業績も重視するチェコ人が少なからずいたのである。こうした考え方はチェコ人のカトリック教会における儀礼の音楽にも影響を与え、20世紀に入ると古代教会スラヴ語の典礼文を用いたミサ曲を『グラゴル・ミサ』と名付けて発表するチェコ人作曲家が現れた(この中にはヤナーチェクに師事し、師のもとにミサ曲の楽譜を送付した者もいた)。

言わば、ヤナーチェクの『グラゴル・ミサ』は、突然変異のように生まれたものではない。19世紀後半以降のチェコ人による汎スラヴ主義を共有していたとともに、古代教会スラヴ語の典礼文によるミサ曲がすでに作られていたからこそ、着想し得たのだ。



グラゴル文字で記された古代教会スラヴ語による「マルコによる福音書」の最初のページ。(ゾグラフォス写本 [10世紀から11世紀にかけて制作])



9世紀後半のモラヴィア王国の領土(濃色の部分は領土であったことが明らかになっている部分、淡色の部分は領土であったことが推測されている部分であることをそれぞれ示す)



カレル・ドヴォジャーク(1893~1950)。『聖キュロスと聖メトディオス』(1928~1938)(プラハのカレル橋の欄干に据え付けられている)

楽曲は9つの楽章からなる。

**第1曲「イントラダ」** ティンパニと金管楽器が活躍する、行進曲風の楽曲。

**第2曲「序奏」** ホルンとトランペットが活躍するファンファーレ。3拍子の声部と5拍子の声部と7拍子の声部が、一貫して同時に鳴り響く。

**第3曲「キリエ」** 5拍子や中欧の民謡に散見される鏡像リズム音型(長・短・短・長)を駆使するなど、全曲が複雑なリズム構造に基づいている。

**第4曲「グロリア」** 「序奏」と「キリエ」とは違って規則的なリズム構造が獲得され、神の名が讃えられる。

**第5曲「クレド」** 全曲中最も長く、複雑な構造を持っている。中盤でのオルガンと合唱とオーケストラとの緊迫感に満ちたかけ合いが白眉。

**第6曲「サンクトゥス」** 弦楽器が全曲にわたって規則的に拍を刻みつつ、聖句の行ごとに独自のモチーフに基づいて楽曲が作られる。末尾では、すべてのモチーフが組み合わせられて最高潮を迎える。

**第7曲「アニュス・デイ」** キリストに憐れみと平安を静かに乞う曲。なお、冒頭で歌われる旋律のリズムと調は、第4曲「グロリア」で合唱が「天のいと高き所には神に栄光、地には善悪の人に平和あれ」と歌う部分に由来する。

**第8曲オルガン・ソロ** 無窮動風の音型が低音部で、コラール風の旋律が高音部でそれぞれ執拗に反復された後に、ともに広い音域を動き回って激しいかけ合いへと発展する、パッサカリア風の楽曲。

**第9曲「イントラダ」** 冒頭の「イントラダ」が再度演奏されて、全曲を華やかに締めくくる。

中村 真 Text by Makoto Nakamura

作曲：1926年8月2日～10月15日(改訂は1926年12月以前、1927年5月29日以前、1927年11～12月に行われた)

初演：1927年12月5日ブルノ、スタディオ・ホールにて、ヤロスラフ・クヴァピル指揮、ブルノ国民劇場管弦楽団

編成：フルート4(ピッコロ持替3)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(バス・クラリネット持替1)、ファゴット3(コントラファゴット持替1)、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ3対、小太鼓、トライアングル、タムタム、シンバル、チューブラーベル、グロッケンシュピール、ハープ2、チェレスタ、オルガン、弦5部、独唱(ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バス)、混声合唱、バンド(クラリネット3)

## 10/14 SAT. 15 SUN.

ヤナーチェク《グラゴル・ミサ》

Leoš Janáček “Mša Glagolskaja”

[歌詞対訳]  
訳：三ヶ尻 正

## 3. GOSPODI POMILUJ

Gospodi, pomiluj.

Chrste, pomiluj.

Gospodi, pomiluj.

## 3. キリエ

主よ、あわれみたまえ。

キリストよ、あわれみたまえ。

主よ、あわれみたまえ。

## 4. SLAVA

Slava vo vyšních Bogu  
i na zeml'i mir, člověkom blagovol'enija.Chvalim te, blagoslovl'ajem te,  
klaňajem ti se, slavoslovim te,  
chvaly vzdajem tebě  
velikyje radi slavy tvojeje.Bože Otče Vsemogyj.  
Gospodi, Synu jedinorodnyj, Isuse Chrste;  
Gospodi Bože, Agneče Božij, Synu Oteč,  
vzeml'ej gřechy mira,  
pomiluj nas.  
Primi mol'enija naša.Pomiluj nas.  
Sědej o desnuju Otca,  
pomiluj nas.Sědej o desnuju Otca,  
Jako ty jedin svět;  
ty jedin Gospod;  
ty jedin vyšňij, Isuse Chrste  
so svetym Duchom,  
vo slavě Boga Otca.  
Amin.

## 4. グロリア

天のいと高きところでは神に栄光がありますように。  
そして地上では善意の人に平和がありますように。私達はあなたを誉め、あなたを祝福し、  
あなたを拝し、あなたをあがめ  
あなたの大いなる栄光のゆえに  
あなたに感謝を捧げます。主よ、全能の父よ。  
唯一の御子である主、イエス・キリストよ。  
主なる神よ、神の子羊よ、父の御子よ、  
世の罪を取り除いて下さる方よ！  
私たちを憐れんで下さい！  
私たちの願いを聞いて下さい。私たちを憐れんで下さい！  
父の右に座しておられる方よ、  
私たちを憐れんで下さい。父の右に座しておられる方よ、  
あなただけが聖なる方であり、  
あなただけが主です。  
あなただけがいと高き方です、イエス・キリストよ、  
聖霊とともに、  
父なる神の栄光のうちに。  
アーメン。

## 5. VĚRUJU

Věřuju v jedinogo Boga,  
Otca všemoguštago,  
Tvorce nebu i zeml'i,  
vidimym všem i nevidimym.  
Amin.

Věřuju,  
I v jedinogo Gospoda Isusa Chrsta,  
Syna Božija jednorodnago,  
i ot Otca roždenago přežde vsěch věk.

Boga ot Boga, Svět ot Světa,  
Boga istina ot Boga istinago,  
roždena, ne stvořena,  
jedinosuštna Otcu, imže vsa byše;

iže nas radi člověk  
i radi našego spasenija  
snide s nebes,  
i voplti se ot Duchu Sveta  
iz Marije Děvy,

věřuju,

raspet že za ny,  
mučen i pogreben byst;

i voskrse v tretij den po Pisaniju,  
i vzide na nebo,  
sědit o desnuju Otca;  
i paky imat priti  
sudit živym mrtvym so slavoju;

## 5. クレド

私は唯一の神を信じます、  
全能の父を信じます、  
天と地と、  
見えるものすべてと、見えないものを作った方を。  
アーメン。

信じます、  
また、唯一の主なるイエス・キリストを。  
すなわち、神の唯一の子であり、  
この世のすべてのものよりも前に  
父から生まれた方を。  
神から出た神であり、光から発した光であり、  
本当の神から出た本当の神であって、  
作られることなく、生まれ出て、  
父と一体であり、その方によって万物が作られた方を。

そのイエスは私たち人間のゆえに、  
また私たちを救うために  
天から降りて来て、  
聖霊によって  
聖母マリアから受肉されました。

私は信じます。

そして私達のため十字架にかけられ、  
受難し、葬られました。

そして聖書に書かれている通り3日目によみがり、  
天に昇って  
父なる神の右に座り、  
再びおいでになって  
生きている者と死んでいる者とを裁きます。



jegože česarstviju nebudet konca.

Věřuju  
i v Ducha Svetago,  
Gospoda i životvoreštago  
ot Otca i Syna ischodeštago,  
s Otcem že i Synom kupno  
poklaňajema i soslavima,  
iže glagolal jest Proroky;

I jedinu svetuju,  
Katoličesku i Apostolsku Crkov;  
i spovědaju jedino krštenije  
v otpuštjenje grěchov;  
i čaju voskrsenija mrtvych  
i života buduštago věka.  
Amin.

## 6. SVET

Svet, svet, svet,  
Gospod Bog Sabaot,  
plna sut nebo, zeml'a slavy tvoje.

Blagoslovl'en gredyj vo ime Gospodně.

Osana vo vyšních.

## 7. AGNEČE BOŽEJ

Agneče Božij, pomiluj nas.  
Agneče Božij, pomiluj nas.  
Agneče Božij, pomiluj nas.

Agneče Božij, vzeml'ej grěchy mira,

Agneče Božij, pomiluj nas.

その(イエスの)王国には終わりがありません。

私は信じます、  
また、主なる聖霊、  
即ち生命を与えて下さる主を。  
その聖霊は父と子から出て  
父と子とともに  
拝され、崇められています。  
その聖霊は預言者によって語ってきました。

また私は、唯一の、聖なる、  
公(おおよけ)の使徒を継承する教会を信じます。  
私は罪の赦しとなる  
唯一の洗礼を認め、  
死者の復活と  
来世のいのちを待ち望みます。  
アーメン。

## 6. サンクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、  
万軍の神なる主は。  
天も地もあなたの栄光に満ちています。

ほむべきかな、主の御名(みな)によって来る人は。

いと高きところにホサナ[いま、救いたまえ]。

## 7. アニユス・デイ

神の子羊よ、私たちを憐れんで下さい。  
神の子羊よ、私たちを憐れんで下さい。  
神の子羊よ、私たちを憐れんで下さい。

世の罪を取り除いて下さる神の子羊よ。

神の子羊よ、私たちを憐れんで下さい。

10/21 SAT.

## 東京オペラシティシリーズ 第135回

2023年10月21日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

## Tokyo Opera City Series No.135

Sat. 21st. October 2023, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮]  
大木麻理 [オルガン]  
ディミトリ・ムラト [ヴィオラ]  
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor  
Mari Ohki, Organ  
Dimitri Murrath, Viola  
Gleb Nikitin, Concertmaster

リゲティ:ハンガリアン・ロック (6')

G.Ligeti : Hungarian Rock (6')

ベリオ:声(フォーク・ソングⅡ)  
~ヴィオラと2つの楽器グループのための(29')

L.Berio : Voci (Folk Songs II)  
for viola and two instrumental groups (29')

休憩(20')

Intermission(20')

ブルックナー:交響曲 第1番 八短調  
(ノーヴァク版リッツ稿) (50')

A.Bruckner : Symphony No.1 in C minor  
(Nowak edition, Linz ver.) (50')

I.アレグロ  
II.アダージョ  
III.スケルツォ  
IV.フィナーレ

I. Allegro  
II. Adagio  
III. Scherzo. Schnell  
IV. Finale. Bewegt feurig

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

ジョナサン・ノットプロフィールはP.4をご覧ください

楽曲解説はP.15をご覧ください



10/21 SAT.

Mari Ohki

Organ **大木麻理** [オルガン]

東京藝術大学、同大学院修士課程修了。DAAD、ポセール財団の奨学金を得てリュベック国立音楽大学、デトモルト音楽大学に留学し、満場一致の最優等で国家演奏家資格を得て卒業。

第3回ブクステフェー国際オルガンコンクール日本人初優勝、第65回「プラハの春」国際音楽コンクールオルガン部門第3位、チェコ音楽財団特別賞ほか国内外で多数受賞。CDアルバム「エリッネルング」「51鍵のラビリンス」がレコード芸術特選盤に選出されたほか、オルガンで参加した「Live from MUZA」は、第58回レコード・アカデミー賞の録音部門を受賞した。

ソロのみならず国内外のオーケストラ、アンサンブルと多数共演、ラジオやTV出演などオルガン音楽の普及に努める。豊かな音楽性と高度なテクニック、個々のオルガンの可能性を活かした音色作りは各所で高い評価を受けている。

神戸女学院大学及び東洋英和女学院大学非常勤講師、ミュゼザ川崎シンフォニーホールオルガニスト。  
<http://mariohki.jp/>



©Mari Kusakari

Mari Ohki is resident organist at Muza Kawasaki Symphony Hall, and a recitalist in demand as a soloist and chamber musician of international standing. She won numerous international competitions including such as the First Prize of the International Dietrich Buxtehude Organ Competition, Second Prize of the Mainz International Organ Competition, and the Third Prize and "The Czech Music Foundation" Prize of the International Prague Spring Music Festival. Ohki received her undergraduate and graduate degrees from Tokyo University of the Arts with special awards as the top student. She was the recipient of the German government's DAAD scholarship upon her graduate study at the Hochschule für Musik in Lübeck and Detmold, where she obtained her Konzertexamen diploma with full marks. Her two CD recordings, both "Erinnerung" and "The Labyrinth of the 51 Keys" are selected as special editions of the Record Art.

Dimitri Murrath

Viola **ディミトリ・ムラト** [ヴィオラ]

ディミトリ・ムラトは、ワシントンのケネディ・センター、ロンドンのウイグモア・ホール、ロイヤル・フェスティバル・ホール、パリ市立劇場等で定期的によりサイタルを開催、世界の音楽シーンにおいて注目を集めている。

プリムローズ国際ヴィオラコンクールで第1位を獲得、その後も第1回東京国際ヴィオラコンクール第2位、ミュンヘン国際音楽コンクールでの現代作品の優れた演奏に送られる特別賞など数々の栄誉ある受賞歴を誇る。

室内楽にも積極的に取り組んでおり、2023年よりエスメ四重奏団に加入。また多数の国際音楽祭にも招待されている。

ユーディ・メニューイン音楽院でナタリア・ポヤルスキーに、その後、ロンドンのギルドホール音楽院でデイヴィッド・タケノに師事した後、ボストンのニューイングランド音楽院でキム・カシュカシアンに師事する。

現在、サンフランシスコ音楽院のヴィオラ科教授および室内楽のクラスで後進の指導にあたっている。



©Hannah Shields

Dimitri Murrath made his mark on the international scene, performing as a recitalist and soloist in venues including Kennedy Center, Wigmore Hall, Royal Festival Hall, and Théâtre de la Ville. A first prize winner at the Primrose International Viola Competition, and the top prize at the Tokyo International Viola Competition and for ARD Munich Competition. An avid chamber musician, he is the violist of the Esmé Quartet since 2023, a member of the Boston Chamber Music Society from 2013 to 2023. He has performed in international music festivals. He began his musical education at the Yehudi Menuhin School studying with Natalia Boyarsky, his Bachelor of Music in London with David Takeno at the Guildhall School of Music and Drama and graduated with an Artist Diploma from the New England Conservatory as a student of Kim Kashkashian. He is currently Professor of Viola and Chair of Chamber Music at the San Francisco Conservatory of Music.

ジェルジュ・リゲティ (1923 ~ 2006)

## ハンガリアン・ロック

初期の「アトモスフェール」(1961)でトーン・クラスター、すなわち音高のズレを扱ったジェルジュ・リゲティは、やがて70年代に入ると、ミニマル音楽的なリズムや音型のズレへと、作曲の関心を移動させてゆく(その後、晩年にかけては音律のズレがここに加わる)。1978年の「ハンガリアン・ロック」で扱われているのも、変奏曲的な論理のなかでの繰り返しとズレだ。

元来はチェンバロのために書かれた作品だが、ここでモデルとして使われているのはシャコンヌ、つまりは低音の舞曲的なオスティナートの上に、さまざまな音群が乱舞する形式。8分の9拍子による曲は、まさに左手が一定のリズムパターンを奏でる上で、右手が即興的な綾を形成するという構造を持つが、尊敬する作曲家のひとりにフレスコバルディの名をあげるリゲティだけあって、この擬バロック的な仕掛けは実に自然に機能している。

左手の音型は、一貫して「2+2+1+2+2」というリズムを取るが、このリズム分割は東ヨーロッパの民族音楽によくみられるもの。また、この左手音型は次々に和音構成を変えてゆく一方で、バス部分は基本的には「ソ・ファ・ド・レ・ラ」という音列を保持する(ちなみに、この冒頭の左手パターン2小節の音高を抽出してみると、リディア旋法に近い音構成を持っていることが分かるのだが、その後のリゲティは、このリディア旋法にちかいバルトークの「倍音列音階」を多用することになる)。

この強烈な左手のパターンの上で、右手は次々と新しい音高を旋法的に導入し、装飾音を随所で響かせながら、奇妙な旋律を奏でてゆく。作曲家リチャード・トゥープは、この右手部分を「マイルス・デイヴィス風」だと指摘しているが、なるほど、時としてモード時代のマイルスを思わせましょう。この右手部分は、最初は左手と同じリズム分割を守っているのだが、徐々に分割具合を変化させて、眩暈のような効果を現出させる。そして最後は、なんの変哲もない変口長調の和音で幕。

沼野雄司 Text by Yuji Numano

作曲：1978年

初演：1978年5月20日ケルン、エリーザベト・ホイナツカ独奏

編成：オルガン独奏

## 10/21 SAT.

ルチアーノ・ベリオ (1925 ~ 2003)

## 声 (フォーク・ソングⅡ) ~ ヴィオラと2つの楽器グループのための

ルチアーノ・ベリオの軌跡を特別なものになっている要素の一つに、編曲へのこだわりがあげられよう。「オリジナリティ」を至上の価値とする現代作曲家の中にあって、こうした姿勢は珍しい。

しかし、そもそもゼロからの創作を行い得るのは神のみであるという視点に立つならば、人間の営みなどことごとく注釈に、そして編曲にすぎないともいえる。カトリックの国イタリアに育った作曲家ベリオは、逆説的にも注釈／編曲こそ、むしろ人間の最もオリジナルな行為であると考えていたに違いない。

彼が1964年に書いた「フォーク・ソングズ」は、世界各地の民謡(疑似民謡を含む)の編曲によるチャーミングな作品だったが、本日演奏される「声」(1984)は「フォーク・ソングズⅡ」という副題を持つ兄弟作品。もとの「フォーク・ソングズ」が歌を伴っていたのに対して、こちらはヴィオラ独奏とオーケストラという編成だが、それでも「声」(ただしイタリア語の複数形)というタイトルが付されているあたりが面白い。すなわち歌手こそいないものの、ここでヴィオラが奏でているのは、声に他ならないということなのだろう。

30分ほどを要する曲は、うすい弦楽器の雲がたなびく中、ヴィオラの長い独奏で始まる。素材になっているのはシチリア民謡だというのが、その旋律はほとんどの場合、抽象化されて原型をとどめてはいない。それでもやがて、そこかしこに不思議な懐かしさが充満していることに聴き手は気づくだろう。また、ヴィオラ独奏を中心にしてオーケストラは二群(一般的に内側と外側の半円型に配置される)に分けられており、多層的な音楽空間を現出させる。

全編を通して、とりとめなく様々な素材が現れては消えるという構成を取るから、根を詰めて構成を追おうとしても難しいはず。むしろ次々にあらわれる瞬間的な響きの面白さ、懐かしさ、不思議さに心をときめかせながら耳を傾けるのがもっともふさわしい聴き方のように思われる。

沼野雄司 Text by Yuji Numano

作曲: 1984年

初演: 1984年10月26日、アルド・ベニーチ独奏、ベリオ指揮パーゼル交響楽団

編成: フルート3(ピッコロ持替3)、オーボエ1、イングリッシュ・ホルン1、小クラリネット1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、バス・チューバ1、中太鼓、タンバリン、ボンゴ、トムトム、マラカス、銅鑼、ログドラム、グロッケンシュピール、ヴィブラフォン、ギロ、スレイベル、シンバル、テンブルブロック、フレグサトーン、マリリンバ、シロフォン、むち、鉄琴、電子オルガン(チェレスタ持替)、弦5部

ヨーゼフ・アントン・ブルックナー(1824～1896)

## 交響曲 第1番 八短調(ノーヴァク版リンツ稿)

おてんばお嬢——現在では19世紀後半を代表する交響曲作曲家の一人として知られているアントン・ブルックナーは、自身の交響曲第1番をそう呼んでいた。この愛称には、第1番の特徴だけでなく、彼の交響曲創作のはじまりを、ほにかみながらも回想するブルックナーの思いが込められているように感じられる。

ブルックナーがはじめて交響曲を書いたのは1863年、リンツの音楽家オットー・キツラーから作曲のレッスンを受けていた時のことであった。ブルックナーは完成した交響曲の実演を目論んでいたものの、最終的にこれを「習作」と見做し、番号を与えなかった。キツラーの下での修行を終え、作曲家として歩みはじめたブルックナーが最初に発表したのは教会音楽だった。1864年《ミサ曲第1番》の初演が成功。その新聞批評にはブルックナーの交響曲を切望する声があった。

キツラーのレッスンを受けていたのと同じ頃、ブルックナーはマイフェルト夫妻に出会う。この夫妻は音楽に造詣が深く、ピアノの演奏にも長けていた。ブルックナーは夫妻の連弾でベートーヴェンの交響曲に触れたとも伝えられている。そして、先に挙げた新聞批評の執筆者こそ、マイフェルトだったのだ。ブルックナーは後にこう語っている。「マイフェルトが交響曲へとわたしの背中を押したのです!」。

《ミサ曲第1番》初演の翌年からブルックナーは交響曲第1番の作曲をはじめ。ベートーヴェンの第5番と同じ八短調の交響曲。ベートーヴェン以後、どのように交響曲を作るのかということは、作曲家にとって大きな問題であった。八短調という調に「闇を抜け光へ、闘争から勝利へ」という、調の軌跡が生み出す物語を期待する人も多い。これらの問題を解決するためにブルックナーが採った方法は、終楽章から作曲することであった。4、1、3、2楽章の順に作曲が進められ、1866年4月に全体が完成した。

第1番は1868年にブルックナー自身の指揮によってリンツで初演された。その後、1877年に修正を加え、1891年には本格的な改訂が施された。一般に1877年までの状態を「第1稿＝リンツ稿」、1891年の段階を「第2稿＝ウィーン稿」と呼ぶ。現在リンツ稿には通常使用される楽譜(版)が三つある。1877年の修正を反映した音楽学者ローベルト・ハース、レオポルト・ノーヴァクによる楽譜と、1868年の初演時の状態を再現した音楽学者トーマス・レーダーによる楽譜である。本日はノーヴァク校訂の楽譜を使用して演奏する。

**第1楽章**は三つの主題を持つソナタ形式。キツラーの下でのソナタ形式研究の成果が発揮されている。低弦のリズムにのってヴァイオリンが行進曲調の主要主題を奏する。穏や

## 10/21 SAT.

かで明るい副次主題(歌の主題)、トランペットやホルンのファンファーレを経て、ワーグナーの《タンホイザー》序曲を思わせる荘厳な結尾主題が登場する。ブルックナーが《タンホイザー》を知ったのは本作が完成するおよそ3年前のこと。ワーグナー作品との衝撃的な出会いの思い出が瑞々しく描かれる。**第2楽章**は冒頭の抒情的な主題と、弦楽器群を中心とした明るく穏やかな主題がそれぞれ変奏され高揚していく。後期の交響曲ほど大規模な緩徐楽章ではないものの、すでにその片鱗も聴こえてくる。スケルツォの**第3楽章**はブルックナーらしい魅力に満ちた音楽。妖しげに躍動する主部と、牧歌的なトリオの対比が見事。**第4楽章**もソナタ形式。冒頭から強奏されるファンファーレ風の力強い主要主題は、第1楽章のファンファーレを思い起こさせる。明るさの中に影を感じさせる歌の主題、そして堂々たる結尾主題がハ短調のドラマをクライマックスへと導いていく。ハ長調への道筋は結尾主題の再現によって照らし出される。解決することなく高められ、溜まり続けるエネルギーは期待されたハ長調の主和音で炸裂し、ハ短調からハ長調へのドラマは大団円を迎える。

後年、ブルックナーは自身の作品を改訂する際、とある規則に従って作品に手を入れていく。そうすることで、彼が理想とするかたちに作品が近づいていったことは間違いない。しかし、改訂される前の作品に残されたブルックナーの音楽もまた、大変興味深い。学習を終えたばかりの作曲家が作った交響曲第1番には、たしかに不器用な旋律や過剰なオーケストレーションがある。しかし、本作にはまた、後の交響曲にはない独特の若々しさもある。そう、本作にはまさに自由奔放でおてんばなお嬢さんのような、かつてのブルックナーの音楽が色鮮やかに残されている。

石原勇太郎 Text by Yutaro Ishihara

作曲：第1稿／1865～66年(1877年以降に修正)、第2稿／1889(90)～91年

初演：第1稿(リンツ稿)／1868年5月9日 レデューテンザール(リンツ) ブルックナー指揮、リンツの音楽家等による特別オーケストラ、第2稿(ウィーン稿)／1891年12月13日 ウィーン楽友協会大ホール、ハンス・リヒター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成：フルート3、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

## 音楽監督

# ジョナサン・ノット インタビュー

取材・文／鈴木淳史（音楽評論家）

# JONATHAN NOTT

一交響的組曲「ペレアスとメリザンド」とヤナーチェクの「グラゴル・ミサ」を今回の公演で組み合わせた理由について教えてください。

「2つの作品には神秘性があります。まず、ドビュッシーの「ペレアスとメリザンド」は、3人の登場人物が避けようにも避けられない運命論を描いています。彼らはどうして出会わなければならなかったのか。その出会いを導いた森の神秘性。それでいながら、とても人間くさい。神秘性と運命論的なものが同時進行していくのです。

一方、ヤナーチェクのミサ曲には、彼ならではの世界観が見事に反映されているんです。モーツァルトなど、われわれが一般的に想像するミサ曲と違い、ロマンティックでありながら、どこか官能的。そして、氷のようにクリアで、独特な和声がそこにはあります。透明で冷たい青い水のような世界ですね。その和声と綾をなすように、スラヴの言語がそこに入ってくるんです。それらとスピリチュアルなものが絡み合って出ている作品です。

前半のドビュッシー作品では言葉を一切使わず、歌手は登場しません。言葉のない世界で、オーケストラだけでどうやって物語を奏でるのかをぜひ耳にして欲しいのです。

プログラム後半では、東響コーラスの素晴らしい力量をフルに発揮していただきたいと思っています。合唱団を率いる富平さんはいたいへんに難しい曲だと言いましたが、オーケストラにとっても複雑な作品なんです。それを可能にする技術を東響は備えています。このヤナーチェクを東響と一緒にやる時期が今まさに来たというわけです」

ドビュッシーの「ペレアスとメリザンド」には、すでにいくつかの演奏会用の組曲版があります。演奏にあたって、それを使うことなく、ご自身による編曲を行った理由などを教えてください。

「若いころもっとも好きなオペラ作品でした。大学に入ると仲間の歌手たちと一緒に公演もやるほど、いつも聴いてましたし。全曲を指揮しろと言われてもすぐにでも



喜んで指揮できるくらいですよ。珠玉の音楽が散りばめられたオペラですが、そのなかには舞台転換のための間奏曲も含まれています。

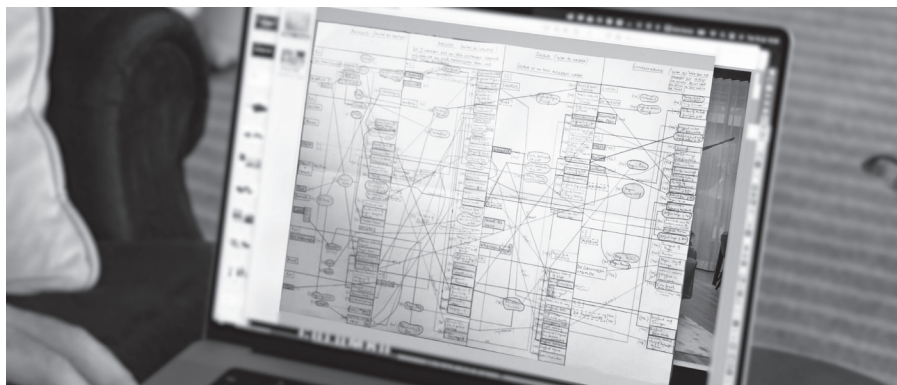
名場面を集めた編曲をコンスタンは行っていましたが、それらの間奏曲を省略しています。アバドやラインスドルフによる編曲も、間奏曲の多くがカットされているんです。でも、その間奏曲はライトモチーフで構成されているんですよね。間奏曲を分析すると、感情がどのように動いていくか、3人の登場人物の感情の変化が見事に間奏曲のなかに描かれている。それを抜くと意味をなさなくなってしまうわけです。

この曲をスイス・ロマン管で演奏しようとしたとき、一緒にシェーンベルクの「ペレアスとメリザンド」を取り上げたのです。こちらも刺激的な作品で、やはりライトモチーフで構成された作品なんですよ。シェーンベルクのように時系列に沿ってライトモチーフをたどりながら進めていくことをドビュッシーでもやってみようかと思ったわけです。音符はほとんどドビュッシーの原曲のままで、繋ぎや声楽の部分をちょっとだけ変えました」

一なるほど。シェーンベルクの方法論を用いて、このドビュッシーのオペラを交響組曲に仕立てあげたというわけですね。音楽だけでストーリーがすべてたどれるという。

「ライトモチーフのリストも作ったんです。メーテルリンクの原作では、運命がすべて円のようにぐるぐると回っていきます。冒頭部分、先の見えない運命を象徴するのが森。そこでゴローとメリザンドが会う。多くの編曲では、ゴローとメリザンドが愛し合っているところが飛ばされてしまっています。ゴローがあれほど嫉妬深いのは、メリザンドを本当は愛しているからだということを示す必要があるので、ここは省略することはできないんです。ワーグナーと同様に、ドビュッシーも音楽だけで物語を語っています。それを浮き彫りにしたいと思ったのです。

ワーグナー作品のライトモチーフも全部表にしているんですよね。神々、ワルキューレ、あるいは権力に属する者などを色分けして分類しています(下の写真)。これと似たようなことをペレアスでもやったのです」



## 音楽監督 ジョナサン・ノット インタビュー

—ヤナーチェクの「グラゴル・ミサ」は、いくつかの版があります。最終稿ではなく、原典版に準拠したユニヴァーサル版を使う理由を教えてください。

「3つの版がありますね。作曲家にとってどれが決定版なのか、わかりにくいのは確かですが、このユニヴァーサル版がもっとも複雑であることは間違いありません。たとえば、序奏では3つのパートが5/8拍子、7/8拍子、3/4拍子で演奏するんです。

のちに作曲家はこの部分をすべて3/4拍子で演奏するように書き換えました。複雑すぎたために、本当はやりたかったことをやらず、あるいは楽器を変えろといったようなことはブルックナー時代からあったことなんです。もし現在の楽器や演奏技量があつたら変えることはなかったはずですよ。

そう、いいオケがそこにあるのだったら、この複雑な版を使わない手はないんですよ！なにしろ、東響はショスタコーヴィチのあの楽章（交響曲第10番の第2楽章）をあんなに速く、性格をきっちり出せるオーケストラなんですから。

そして、この版では冒頭のイントラダが最後にもう一度繰り返されます。シンメトリックな構造なんですよ。ドビュッシーの「ペレアス」の円環構造とも共通するところがあります」

—このヤナーチェクのミサは宗教曲とみなしていいのでしょうか。

「ヤナーチェクは最初は合唱団で歌を歌っていました。そして、教会のオルガニストになります。彼は皮肉屋で、宗教嫌いだったという人がいますが、好きじゃな

きゃそういう道を進もうとは思いませんよね？彼の音楽に宗教的な要素が少しずつ入り込んでいても不思議ではない。音楽には、つねに様々なジェスチャーが織り込まれるものですよ。

ミニマリスティックな構成のなか、透感のある明るい光の感覚もあります。そういったものを考えた場合、たとえばアニウス・デイなどは、とてもエモーショナルで、フォーレの「レクイエム」との共通項も感じずにはられないのです。そして、彼がオペラの作曲家であったということも忘れてはなりません。とても人間らしい、寛大な心を持った人が出てくるような作品を書いています。彼のオペラを分析すると、やはりそこに彼の間観が現れているわけです。

ショーペンハウエルは、神はわれわれのなかにいる、と言ったのですが、それに通じるような精神を感じます。どこか特定の宗教ではなく、内側にスピリチュアルなものがあり、それが非常に明確にクリアなものとして外側へ出てきた作品なのではないでしょうか。ベートーヴェンの「ミサ・ソレムニス」も完全な宗教曲とはいえませんが、その感覚に近いものを感じます」

—この曲の日本初演を行ったのは東京交響楽団です。1972年にコシユラーの指揮だったのですが、それ以降取り上げられることはなく、今回はこの楽団では半世紀ぶりの演奏となります。御存知でしたか？

「ワオ！知らなかった。これはすごい驚きですよ。ヤナーチェクは本当に面白い作曲家なんですよ。オペラを含め、今後も取り組んでいきたいものがたくさんあるんです」

# Together With TSO

for Music Lovers

## 東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名（敬称略）

法人  
会  
員

### プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス  
株式会社ドワンゴ

### ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人  
株式会社伊藤総合事務所  
株式会社イノアックコーポレーション  
株式会社インサイド・アウト  
環境ステーション株式会社  
株式会社ティー ワイ リミテッド  
株式会社日本財託  
株式会社パソナグループ

### ゴールド会員

株式会社青山メインランド  
株式会社あ佳音  
オリエンタル酵母工業株式会社  
サントリーホールディングス株式会社  
株式会社すかいらーくホールディングス  
社会医療法人財団石心会  
玉川学園・玉川大学  
玉の肌石鹸株式会社  
中外製薬株式会社  
銚子屋油槽船株式会社  
株式会社TFDコーポレーション  
株式会社鉄鋼ビルディング  
株式会社トーションパートナーズ  
西松建設株式会社  
株式会社NIPPO  
株式会社日本M&Aセンター  
ヒノキ新薬株式会社  
司法書士法人ふなざき総合事務所  
ミヨシ油脂株式会社  
ヤマザキビスケット株式会社

### シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト  
公益財団法人青梅佐藤財団  
川崎信用金庫  
松竹株式会社  
月島食品工業株式会社  
東京鐵鋼株式会社  
司法書士法人村田事務所

### ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社  
NPO法人かわさき市民アカデミー  
酒蔵駒八 別館  
株式会社シグマコミュニケーションズ  
新宿村スタジオ  
有限会社青史堂印刷  
ニッシンエレクトロ株式会社  
富士フィルムビジネス  
イノベーションジャパン株式会社神奈川支社  
前山歯科医院  
株式会社LALLヒューマンホールディングス

### 賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程  
政鬼運輸株式会社  
山崎製パン株式会社

匿名2社



# Together With TSO

for Music Lovers

## 東京交響乐团サポーター会員

©N.Ikegami

東京交響乐团へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

\*新会員の方です。ありがとうございました(9月29日現在。五十音順)。

- 柏木 仁
- 方波 和雄
- 山見 千栄
- 城仲 伸
- 葛城 憲司
- 加藤 里加子
- 川口 善行
- 川野 陽子
- 河野 広和
- 菅田 海
- 菊池 信
- 北野 雅子
- 北村 眞
- 木下 泰子
- 木下 亮平
- 實根 弘篤
- 好一
- 木村 富土子
- 木村 美智子
- 木村 潔
- 玄間 幸
- 小泉 美徹
- 小泉 博
- 好土 稔子
- 河野 太
- 高山 恵子
- 山府 里周
- 国府 恵子
- 小坂部 一雄
- 古平 淳
- 小西 恭二
- 小林 宏州
- 小林 浩
- 小林 近藤
- 近藤 諒弥
- 近内 光一
- 近内 友史
- 後藤 裕二
- 齋藤 一宏
- 齋藤 爽子
- 齋藤 ひろ子
- 齋藤 博
- 齋藤 将隆
- 齋藤 将司
- 酒井 典子
- 坂本 タカ子
- 坂本 宗男
- 前刀 禎
- 佐々木 紀博
- 佐々木 通博
- 佐々木 基
- 佐藤 謙
- 佐藤 幸子
- 佐藤 勝
- 佐藤 政
- 藤重 俊
- 成野 恒夫
- 茂野 雅一
- 重光 一朗
- 穴重 晴雄也
- 柴田 朋子
- 崎崎 明夫
- 嶋川 重夫
- 清水 志村
- 志村 庄司
- 白石 大幸
- 城本 和美
- 菅澤 昌代
- 菅原 史次
- 杉山 啓次
- 杉山 重明
- 杉山 二情
- 洲合 明子
- 洲合 啓介
- 鈴木 孝治
- 鈴木 幸恵
- 諏訪 清木
- 清木 達
- 関 翔太
- 関口 あずみ
- 高石 亜希子
- 高木 敏
- 高木 晴彦
- 高木 知也
- 高野 洋二
- 高野 勝弥
- 高橋 美穂
- 高橋 有ユリ
- 高橋 則雄
- 高橋 幸男
- 高橋 昭聖
- 高松 眞也
- 高森 眞也
- 高森 眞也
- 竹内 竜太
- 竹内 和彦
- 竹内 正隆
- 竹腰 裕行
- 竹腰 裕行
- 竹腰 大彦
- 武田 克彦
- 武田 幹昌
- 武田 三敬
- 武田 二浩
- 忠内 田
- 多田 中
- 田中 浩司
- 田中 浩司
- 谷川 由香
- 谷原 万
- 種井 守
- 田井 正浩
- 千田 靖久
- 田田 和男
- 塚田 玲子
- 築館 淳
- 津久井 直浩
- 津直 政幹
- 土屋 洋一
- 坪井 佳代
- 寺澤 治男
- 寺田 淳夫
- 山登 明史
- 富原 博之
- 鳥居 順子
- 鳥居 夕紀夫
- 忠哲 人
- 元嗣 洋
- 明子 直
- 西 美紀
- 西 晶
- 西 陽子
- 西中 淑子
- 西村 淳夫
- 西村 真
- 西山 英昭
- 野口 信弘
- 野口 誠
- 野口 真有成
- 野口 真澄
- 野村 千鶴子
- 野村 和雄
- 橋本 一史
- 橋本 巨絵
- 橋本 憲人
- 長谷川 介
- 長谷川 博
- 波多 三三
- 波多 ミサエ
- 早川 明男
- 林 博子
- 林 和代
- 林原 和宏
- 原 正隆
- 原 岳士
- 原田 慶子
- 春川 京子
- 坂東 泰實
- 関 恵子
- 関 昭
- 関 泰文
- 後富 廣
- 後富 廣
- 廣直 行
- 深沢 茂
- 古市 美樹
- 古澤 典秀
- 堀田 浩史
- 堀川 信子
- 前田 泉
- 牧口 光郎
- 菊田 正司
- 桐井 明
- 松岡 秀樹
- 松尾 繁
- 遠山 之
- 松下 泰
- 松本 俊郎
- 松本 敏子
- 松本 雅也
- 丸山 哲也
- 丸山 水
- 丸山 水
- 水谷 弘
- 水谷 晴彦
- 水野 純子
- 三田 健司
- 宮坂 朋子
- 宮寺 昇
- 宮村 誠司
- 上村 正
- 瀨田 善弘
- 室田 千恵子
- 森 敦
- 森 里美
- 森 美子
- 森 政和
- 森 篤喧子
- 諸岡 宣幸
- 柳沼 美智子
- 柳沼 康男
- 柳 雅一
- 柳 友幸
- 柳山 裕児
- 柳山 政継
- 山口 昌亮
- 山田 美生子
- 山田 義則
- 山田 博
- 湯川 俊明
- 横山 尚洋
- 吉居 秀修
- 吉田 淳
- 吉田 美紀
- 吉野 民子
- 吉水 純子

- 名誉会員
- 米田 ヨーコ・ナガエ
- 米田 光
- 米谷 克幸
- わ
- 若田部 矩弘
- 若槻 不二夫
- 渡邊 朋子
- C.S.
- N.S.
- T.Saito
- 匿名 116 名

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

- 鈴木 久子 牧野 季子
- 竹内 容子 岡橋 純男
- 齋藤公治メモリアル基金 岡橋 孜

法人定期会員

- 【定期演奏会】  
東京コンテナ工業株式会社



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくだされた方には、入場券代はお返し致しません。特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

- 安齋 優
- 伊藤 智志
- 粟田 清司
- 関根 三善
- 東 由美子
- 樋口 由美
- 匿名 10 名
- (敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター  
044-520-1511へお電話でお願いします。



©N Ikegami

## <東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

### 個人会員

フレンズ1

年額1万円  
~29,999円

フレンズ3

年額3万円  
~49,999円

フレンズ5

年額5万円  
~99,999円

サークル10

年額10万円  
~249,999円

サークル25

年額25万円  
~499,999円

サークル50

年額50万円~

### 法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円~

シルバー

年額30万円~

ゴールド

年額50万円~

ダイヤモンド

年額100万円~

プラチナ

年額1000万円~

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員				
		法人会員	サークル 会員	フレンズ会員		
				フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内		○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○	○
ご芳名掲載		○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1		○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2		○	○	○	○	○

\*1 一部対象外もございます。\*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

### 税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分<sup>\*3</sup>について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。<sup>\*3</sup>

<sup>\*3</sup>但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

# NEWS & TOPICS

新 入 団

10月1日付

荒木良太 Ryota Araki [首席オーボエ奏者]

理 事 就 任

10月3日付

コシノジュンコ Junko Koshino [デザイナー]

22年間パリコレクション参加。オペラ「魔笛」や「蝶々夫人」(チョン・ミョンフン指揮)、ブロードウェイミュージカル「太平洋序曲」(トニー賞ノミネート)等の衣装を手掛ける。2025年日本国際博覧会協会シニアアドバイザー、文化功労者。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ(フランス政府より)、旭日中綬章受章。



菅谷貴子 Takako Sugaya [山田・尾崎法律事務所弁護士]

1995年慶應義塾大学卒業。2002年弁護士登録。企業法務を中心に、コンプライアンス・不祥事対応を担当。また、コンテンツ配信プラットフォームの開発、音楽制作等を行う企業の社外監査役や、その他複数の企業で、社外取締役、社外監査役に就任。幼少期より、家族の影響でクラシックに触れ、ミュージカル鑑賞が趣味。



森 京子 Kyoko Mori [森美術館理事]

東京生まれ。東京女子大学卒業。1991年まで日本長期信用銀行(現・SBI新生銀行)アジア部に勤務。2019年より森美術館の理事に就任。現代アートの普及やアーティストの活動をサポートするべく尽力している。両親が交響楽団の定期会員だった影響で幼少の頃よりクラシック音楽に親しみ、特にサントリーホール各種公演には頻繁に訪れている。



評 議 員 就 任

10月3日付

中村紀子 Noriko Nakamura [株式会社ポピンズ代表取締役会長]

テレビ朝日アナウンサーを経て、1985年日本初の女性管理職協会・日本女性エグゼクティブ協会を、1987年働く女性の育児と仕事の両立のため、(現)株式会社ポピンズを設立。全国339か所のナーサリー・学童施設等では、ポピンズプラスとして、お子様のための本物・一流体験ができる音楽プログラムも実施している。





# NEXT PROGRAM

音楽監督

ジョナサン・ノット

世界の巨匠

ゲルハルト・オピッツ

## 注目の2プログラム4公演

11/11 第716回 定期演奏会  
(土) 18:00 サントリーホール

12 第134回 新潟定期演奏会  
(日) 17:00 リゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館コンサートホール

：指揮：ジョナサン・ノット、ピアノ：ゲルハルト・オピッツ

：ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 op.19

：ベートーヴェン：交響曲 第6番 へ長調 op.68 「田園」

[11/11]S¥9,000 A¥7,000 B¥6,000 C¥4,000 P¥3,000

[11/12]S¥8,500 A¥7,000 B¥5,500 C¥4,000 D¥3,000

11/17 東京オペラシティシリーズ第136回  
(金) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

18 名曲全集 第193回〈後期〉  
(土) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

：指揮：ジョナサン・ノット、ピアノ：ゲルハルト・オピッツ

：チェロ：伊藤文嗣（東響ソロ首席奏者）

：リグティ：アパリシオン

：ドビュッシー：3つの夜想曲より 「祭」

：ブルーーズ：メサジェスキス ～独奏チェロと6つのチェロのための～

：アマン：グラット

：ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73 「皇帝」

[11/17]S¥8,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000

[11/18]S¥7,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00～18:00 / 土日祝休)

リゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521 (11:00～19:00 / 休館日除く) (11/12公演)



# 東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ  
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



© T Tairadate

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュンヘン・ザクセンハウスホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」[0歳からのオーケストラ]等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、《サロメ(演奏会形式)》は、毎日新聞クラシックナビ「2022年開催公演ベスト10」第1位、音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出された。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world, and its Salome in Concert Style was selected as the best Japanese Concert in the "Concert Best Ten 2022" by Ongaku no Tomo magazine, and won the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra' s amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 40 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO' s home and Mozart' s Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

[5組10名の小・中・高校生無料招待]



NICO NICO  
TOKYO SYMPHONY  
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト  
[TSO MUSIC & VIDEO  
SUBSCRIPTION]

1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT PROGRAMME  
**Symphony**

Symphony 2023年(令和5年)10月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764  
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310  
ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト